

村田直樹・客員教授を迎えて

—濱田初幸ゼミナール研究会 報告—

濱田初幸*

1. はじめに

平成19年度に本学客員教授として招聘した村田直樹先生による授業を、「柔道創設者・嘉納治五郎の思想」のタイトルで実施したので報告する。

2. 目的

村田直樹先生は講道館図書資料部長の任に就き、嘉納治五郎思想研究者の第一人者であり、講道館柔道の普及発展にも寄与されている柔道界の中心的人材でもある。現在は(財)全日本柔道連盟の教育普及委員長として指導者養成、青少年育成、視覚障害者柔道の支援、また(財)全日本柔道連盟と(財)講道館の合同プロジェクト「柔道ルネッサンス特別委員会」委員など柔道を通じた啓蒙活動などの活動を行っている。その功績は国際的にも高く評価され、国内のみならず世界中で講演や指導を行っている。

今回はゼミ生を主な対象として村田先生の講義を拝聴させ、柔道界の現状、柔道の歴史、理念を学ばせ、武道課程専攻の学生としての専門的知見に関する学力識見の向上を図ることを目的とした。

3. 日時・場所

平成20年1月22日(火)4限(14:20~15:20)、本学教職員、学生等を対象に研究棟8階会議室にて開催した。

4. 内容

研究会は、武道および柔道に関し、対象学生から前もって出された質問事項を整理し、それを事前に学生側から村田先生に提出していた事項について、口頭で回答する形式で行われた。授業展開としては、講師側からの一方向的な授業形態ではなく、学生一人一人に質問、感想を問いかけながら巧みな話術で積極的に意見を引き出し、ディスカッションも取り入れられた質の高い内容であった。

以下は研究会にて講義された内容である。

- ・嘉納師範が創始した柔道の元とも言える起倒流は現在でも続いているのか。
- ・嘉納師範が柔道を創始した時の周囲の環境はどのようなものであったのか。
- ・嘉納師範の弟子といえる人にはどのような人物がいたのか。
- ・嘉納師範が最も気に入っていた流派は何か。
- ・1926年に講道館女子部が発足したが、それまで女子部がなかったのはなぜか。
- ・現在の障害者柔道に関する活動にはどのようなものがあるのか。
- ・「青年修養訓」を作られた意図は何か。
- ・嘉納師範は多くの流派から何を学んだのか。
- ・嘉納師範の得意技は何だったのか。
- ・柔道のオリンピック競技採択の理由は何か。
- ・講道館と大日本武徳会の関係はどのようなものだったのか。

これらの質問事項に一つ一つ懇切丁寧に答えな

*鹿屋体育大学伝統武道・スポーツ文化系

がら、また、時には国際性に富んだ体験談を交えながら、柔道の発展を深く熟考されている講義内容であった。

5. 終わりに

講義は3時間にも及ぶ長い時間であったが、専門性及び学術性豊かな素晴らしい内容であった。素晴らしい講義というものは、どんなに授業が上手であっても成立はしない。話す側、聞く側の両者が共鳴しなければ成立しない。今回の講義では、村田先生の豊富な知識や人柄からか、日頃は勉強に縁遠いと思われるような学生たちも、誰一人として睡魔に襲われることなく興味深く拝聴している様子が見られた。

また参加した学生は40名ほどであったが、ほぼ全員から感想や質問が自発的かつ活発に述べられ、学生参加型の双方向授業が展開された。全体的に終始和やかな雰囲気の中で行われ、時には笑いも出るなど、非常に盛り上がった講義内容であった。

武道指導実践のスペシャリストとして、実技、理論を兼ね備えた指導者育成を目指す本学武道課程の教育方針に相応しいゼミナール研究会を実施することができたものと自負している。